

令和4年度足立区公金管理運用計画

1 運用計画策定の目的

会計管理者の管理する資金(歳計現金・歳入歳出外現金及び基金に属する現金)について、「足立区公金管理運用基準」に基づき、毎年度の計画として、具体的な管理・運用方法を策定する。

2 資金管理の具体的方法について

(1) 歳計現金・歳入歳出外現金

日々の支払や貸付に使用するため流動性が要求されることから、原則として指定金融機関の普通預金で運用する。

(2) 積立基金

ア 一括運用について

介護保険特別会計の介護保険給付準備基金も含め、18の基金を一括運用することにより効率性と流動性の向上を図っていく。

イ 債券での運用

債券中心のキャッシュフロー・マッチング(※1)の運用を基本としつつ、預金金利との見合いにより、預金による運用を増額するなど柔軟に対応する。主に5年先までは、中期財政計画で予定している各年度の取崩額を債券償還額でまかなえるよう、償還期間5年の債券を中心に運用する。ただし、基金に係る積立・取崩予算の編成状況に留意し、中長期の流動性を損なわない範囲で行う。

また、10年のラダー型(※2)ポートフォリオ(※3)の構築を継続する。主に6年先から10年先までは、償還期間10年の債券を中心に運用する。購入する債券は、国債、政府保証債、地方債、財投機関債で、元本の償還及び利息の支払が確実な利付債券とする。

ウ 預金での運用

都市銀行、地方銀行、信託銀行、信用金庫等に預託を行う。ただし、各金融機関の信用力を見極め、リスクの分散に努める。

分散運用を図るうえで、必要に応じ、一金融機関あたりの預金額等の上限を設けるとともに、満期日を分散して流動性を確保する。

いずれの金融機関に預託する場合にも、譲渡性預金並びに大口定期預金で1年程度の範囲で運用する。

3 積立基金の状況

単位：百万円

基金名		3年度末 現在高見込	4年度 当初積立	4年度 当初取崩	4年度末 現在高見込
財政調整基金		42,342	16	11,541	30,818
減債基金		5,361	45	242	5,164
その他の特定目的基金		131,790	907	20,586	112,111
うち 主な 基金	公共施設建設資金積立基金	47,323	35	6,197	41,161
	地域福祉振興基金	5,178	16	1,079	4,116
	義務教育施設建設等資金積立基金	59,395	42	8,659	50,779
	竹の塚鉄道立体化及び関連都市計画事業資金積立基金	3,311	3	1,151	2,163
	大学病院施設等整備基金	500	2	500	2
合 計		179,494	968	32,369	148,093

※ 『令和4年度予算編成のあらまし』87ページの「積立基金の状況（一般会計）」に介護保険特別会計にかかる介護保険給付準備基金分を加えて作成した。

※ 金額は、表示単位未満の端数調整をしていないので、加減した数値には一致しない場合がある。

4 積立基金のポートフォリオ

(1) 金融商品別ポートフォリオ

令和4年5月末見込

	預金	債券
全基金	45%	55%



令和5年5月末見込

	預金	債券
全基金	41%	59%

(2) 金融機関別ポートフォリオ

令和4年5月末見込

	都市銀行	信託銀行	地方銀行	信用金庫
預金	99%	0%	0%	1%



令和5年5月末見込

	都市銀行	信託銀行	地方銀行	信用金庫
預金	96～98%	0%	0～1%	2～3%

(3) 債券別ポートフォリオ

令和4年5月末見込

	国債	政府保証債	地方債
債券	0%	3%	97%



令和5年5月末見込

	国債	政府保証債	地方債
債券	0%	3%	97%

5 運用計画の見直しと実施

この計画は、必要に応じて見直しを行うものとする。

【語句の説明】

※1 キャッシュフロー・マッチング

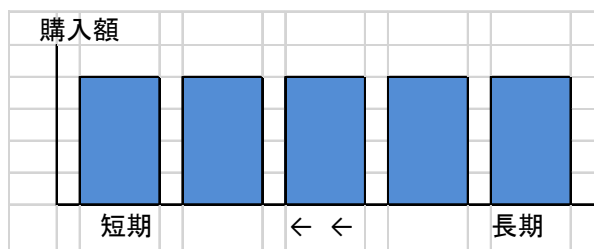
将来の支払い額が確定している取崩（予算への繰入れ）のキャッシュフローと等しいキャッシュフローが得られるように債券を運用する方法のこと。

※2 ラダー型

毎年、同額の償還が到来するように債券を運用する方法のこと。

※3 ポートフォリオ

金融資産の組み合わせのことをいう。



ラダー型ポートフォリオ

以上